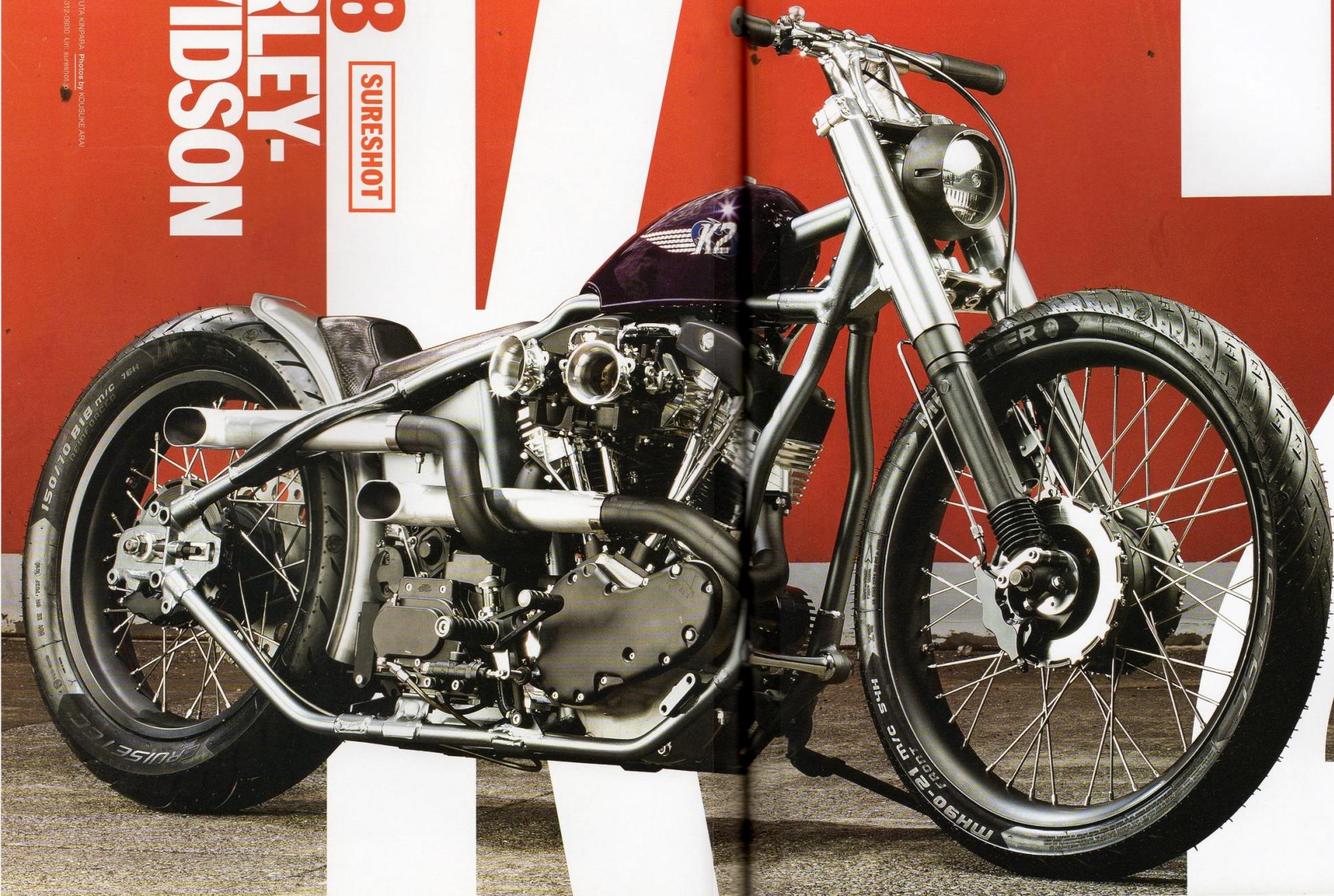


# 1968 HARLEY-DAVIDSON FLH

SURESHOT



Owner: KOKICHI HIROSHIMA Text by YUTA KINPARA Photos by KOUSUKE ARAI  
Special Thanks to SURESHOT Tel. 043-312-9800 URL: sureshot.jp

## ハンドメイドとハイテックのハイブリッドで HCSの頂点を極めたストリートロッド



日本のカスタムショーの中で最大規模を誇るYOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOW。全国のカスタムビルダーが一年の集大成として渾身のカスタムマシンを持ち込み、海外からのエンターも年々増え続けている。カスタムビルダーにとっての日本最高峰の舞台で2019年の“ベスト・オブ・ショーア・モーターサイクル”に輝いたのがこの“K2”である。

ビルダーは千葉県のSURESHOT代表相川氏。走りを意識した独自の世界観を映し出すフルカスタムでHCSに挑み続け11年、ついに頂点に辿り着いた。相川氏がビルトするマシンに貫するには、ディテールのユニークさを追求しながらも走りをブラッシュアップさせる機能と造形美の両立。K2はそんなSURESHOTのカスタムマナーが隅々まで投影されたマシンだ。

コンパクトでスッキリとしたボバーのフォルムにハイテックとハンドメイドのディテールが共存するスタイリング。ビレットヘッドやインボードブレーキなど、ボバーのトラディショナルな世界観と相反

する要素を取り入れながら、外装やフレームをハンドメイドで作りあげ、違和感なく融合させている。そしてショーレースとは言え、華美に走るのではなくストリートの視点を逸脱しない絶妙なバランス感覚にも注目したい。

エンジンはクランクからフルO/Hを施し、Speed&Science製のビレットヘッドと前後独立インティクマニホールドによってツインキャブ化したアーリーシャベル。ロッカーカバーとカムカバーをマットブラックに塗装して、ビレットパーツが過度に目立つことなくさりげなく存在感を主張することに成功している。排気量1200ccのままツインキャブとハイカムによって程よくホップアップが施され、デスピのケースにフルデジタルの点火モジュールを内蔵。外観から見えていない部分には現代の技術を投入して、ヴィンテージバイクのネガティブな要素を取り除く手法は相川氏が得意とするカスタムである。

一見シンプルに見える外装だが、タンク、フェンダーの造形はハイテックバーブを中和させる、ハンドメイド感を強調

するディテール。宇宙をイメージしたと言うペイントはよく見れば、パールフレークとキャンディを何層にも重ね、シックなパープルに深みを持たせているのだ。また、「大排気量エンジンで軽い車体を走らせるのがホットロッドに通じるボバーの醍醐味」と語るだけに、車体は最小限の装備でコンパクトに作られている。ネック下から伸びる2本のバーがリアエンドまで繋がり、シート下あたりでマフラーが貫通する斬新なフレームワークは最大の見せ場の一つだが、見た目の派手さだけではなく長いマフラーを装着しても車幅を抑える効果を狙ったものだ。そして、貫通する部分のフレームをラグ風にすることでヴィンテージバイクらしい質感を残している。

ショーレースで目を惹くディテールワークを意識しながらも、全てのディテールに意味がある。バイクの当たり前の機能を犠牲にしないのは大前提。ボバーに欠かせない走りの性能をアップデートし、新旧の要素を巧みに融合させたこの1台はH-Dベースのストリートロッドの一つの答えを示しているようだ。

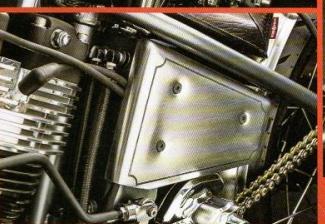


マフラーが貫通するフレームワークは、スキニーなシルエットを崩さずに長いマフラーを装着するために生まれたディテール。前後エキパイの長さを合わせて等調にしている点も見逃せない。シフトフッドはSURESHOTのオリジナル。

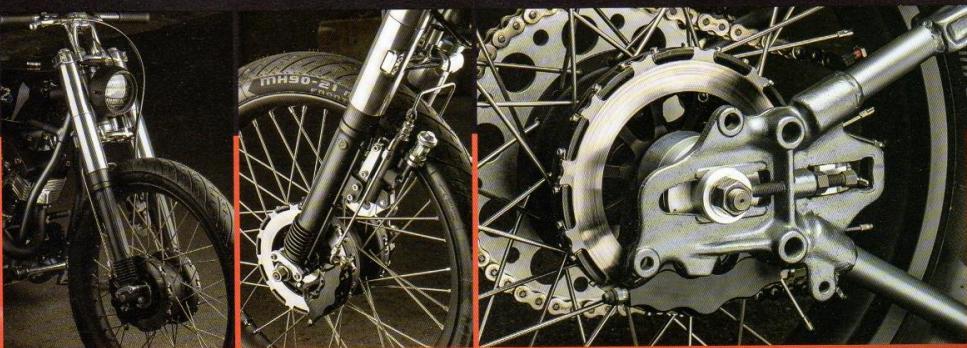


S&S 4速ケースにJIMSの5速トランスミッションをインストール。クラッチはBDLで、油圧クラッチ化。走りやすさを考慮したセディファイだ。

ハンドルはオリジナルの「半ズレバー」。ギアリワイヤーが真っ直ぐある高さで設計されているため、インナースロットルでハンドル回りをスッキリさせている。サイドカバー、リアフェンダーはアルミニウム製のワニード。ハイテクな要素が強い車体の中でハンドメイド感を演出するディテールだ。スタジオウヰギーが製作したシートはシボ感の強いホースキンを使用。エイジングも楽しみな逸品。



タンクの形状はフレームに合わせて計算し尽くされた造形美。深みのあるパープルのペイントはよく見ると黒地の上にブルーパールフレークを重ね、その上から何層ものキャンディーを重ねていることがわかる。フレームはハイドロのレプリカフレームを加工したもので、ネックの下から伸びるバーがリアエンドまで繋がるデザインで製作。



ナローなフロントフォークはBULTACOから流用したもので、ワンオフのアルミ製フォークカバーをセットしてスムーズなフォルムに仕上げた。前後のインボードブレーキはBERLINGERにオーダーし、フォークの幅に合わせて加工して装着。ハンドル周りをシンプルにするためフロントのマスターシリンダーをアウタースライダーに移設。フロントリムはH-D FXD35の21、リアは18のサンリム。あえてタイヤは最新のMETZELER CRUISETECを採用。



マットブラックとビレットのコントラストが効いたアーリーシャベル。ビレットのヘッドと前後独立インマニはSpeed&Science製を装着し、ケイビン・バタフライを2基がけ。腰下からフルOHを施し、アンドリュースのABカムをインストール。始動はセルオンリーで、点火はダイナ2000iを採用。

